

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：ベトナム） 実践報告書

聖徳大学附属小学校
渡邊 貴之

タイトル：「ベトナムにふれよう！」

実践教科：社会

対象児童・学年：3年2組

対象人数：34名

カリキュラム案

(1)実践の目的

自分たちの生活が当然だと思ふ気持ちに揺さぶりをかけ、違いを認めてそれを受け入れる姿勢を育てる。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
9月初旬 ベトナム研修の報告	2学期始業式の日、学年朝会で実施。ベトナムの笠をかぶって登場し、どんな11日間だったか概略を説明。	・ベトナムの笠
9月中旬 DVD鑑賞	研修中に撮りためたビデオをつなぎ合わせたDVDを子どもたちに見せ、日本と同じ部分・違う部分を感じさせる。	・ベトナムDVD ・テレビ ・DVDプレーヤー
10月初旬 ベトナムの食べ物	滞在中に触れた食文化について、写真や映像をまじえて解説。	・デジカメ画像
10月中旬 ベトナムの学校	現地では盲学校、高校、小学校、幼稚園などを訪問。その時の様子をもとに、日本との違いを意識しながら展開。	・デジカメ画像

授業の様子

①実施日：9月1日（木）

●テーマ：ベトナム研修の報告

●授業内容：

9月1日（2学期始業式の日）の学年での最初の集会で実施。

いきなりベトナムの三角形の笠をかぶって登場した。その後ベトナムでの11日間について少し説明。小学校・高校などを回って現地の子どもや教師と触れあったこと、千葉県・埼玉県の熱意ある先生たちと過ごして大変刺激を得たこと、国際理解教育がこれからの時代に必要だと感じたこと、そしてベトナムの生活・文化・風習について語った。

●児童の反応、評価

ベトナムという国になじみのある児童は少ない。そのことから子どもがどのくらい興味を持つか不安な点もあったが、おおむね好奇心をもって話をきいていたように思う。

●指導者自身の所感・反省点・今後の改善策など

今回の話は、研修後の実践のイントロであったが、その後の展開を練らずにおもむろに感じたことを話ただけで終わってしまった。より系統だてて指導を展開するためにも、指導計画を立てて、1時間1時間の関連性をもたせて指導に当たるべきだと感じた。

②実施日：9月中旬

●テーマ：映像からベトナムの雰囲気に触れる

●授業内容：

ベトナム滞在中に撮りためたビデオ映像をDVDに焼き直し、DVDプレーヤーで再生。
ダイジェストのような形で要所のみをつまみ食的に再生。

おもに触れた部分としては

- ・ベトナムの交通事情（バイクが道にあふれかえっている）
- ・学校の事情（先生の99%は女性）
- ・小学生、高校生の様子
- ・ベトナムチームの先生方の活動の様子

（とにかく積極的にいろんなことを吸収しようと取り組んでいたこと。

むし暑さに負けず、体調を崩しながらも毎日多くの場所を回り、学んでいたこと
訪問のお礼に歌「ふるさと」を合唱したこと、など）

●児童の反応、評価

話で聞くだけの時よりも興味を示していた。映像世代の子どもたちである。耳から・文字からの情報から想像を膨らませる力は決して強くないが、映像という情報から吸収しようとする姿勢はとても強い。

積極的な児童は映像の中のことについて質問をしたり、話し合ったりしていた。

●指導者自身の所感・反省点・今後の改善策など

撮りためた映像を、ところどころ飛ばしながら見るという方法はあまりいいとはいえない。
早送りする際に間延びしてしまうからである。また事前にこういうところを特に見せたいという教師側の意図も希薄だったために、視点の置きどころについてうまいアドバイスをできなかった。

③実施日 10月上旬

●テーマ：ベトナムの食文化

●授業内容：

滞在中に食べたものから、ベトナムやアジアの食文化について考える。

フォー：ベトナムといえばフォーである。大半を過ごしたホアビンホテルでは毎朝食べていたし、どこの街角にもフォーを売る店がある。まさに庶民の料理。フォーにも種類がたくさんあって、具によって味も変わる。

香草：食事とともに出てくるのが緑の濃い香草。最初は香りの強さが気になっていたが、やはりベトナム料理にはこの香草がよく合うと分かってからは、たくさん食べた。

生卵：衛生事情の悪さから、生物・生水には手を出さないようにJICAからも指示があった。しかし私は生卵を食べてしまったために4日間下痢にさいなまれることになってしまった。そのことも、日本との衛生事情の違いを示す事実として子どもたちに紹介。

市場：タンディン村の市場を訪問した際、酷暑の中、生肉、野菜、お菓子、生活雑貨などの店が入り乱れて並んでいたことを紹介。まさに混沌の中になにもかもが詰め込まれている、ベトナムの今を象徴している気がした。

米：日本と同じように米も食べる。しかし細長い種類の米。米でつくっためんもある。

●児童の反応、評価

やはり食べ物の話には食いつきがいい。さかんに質問をしたり、感想を述べあったりしていた。子どもの中にはベトナム料理を食べたこともある子もいて、自分の知っている料理について紹介もしていた。

●指導者自身の所感・反省点・今後の改善策など

おもにデジカメ画像をもとに話を進めていった。しかし教師の一方的な話が多く、参加型の授業にはならなかった。

できるだけ考えさせるために教師が全部話さず、クイズ形式にする方法も考えられた。

④実施日 10月中旬

●テーマ ベトナムの学校

●授業内容

現地で訪れた各学校の様子から、自分たちが受けている教育との違いを考えさせる授業を展開。

盲学校：福祉・教育の機会が整備されていない現実を紹介。それでも盲人教育を広げようと努力している人たちがいることを理解する。

小学校：ベトナムの子どもたちと自分たちとを比較して考える。我々ベトナムチームが訪問した際にはとても興味を示し、空手の技やダッカウの遊びを熱心にやっていた。この「ひたむきにがんばる姿」は今の日本の子どもたちが少しずつ失ってきているような気がしてならない。

高校：制服として、女子はアオザイを着ていた。その高校生たちとグループごとに交流を行ったのだが、私は高校生にかたことの英語で折り紙を教えた。生徒たちの熱心に折り鶴を折っていた姿が印象的だった。

幼稚園：歌を歌ったり、踊りを踊ったりする姿は日本とそれほど変わらないことに子どもたちが気付いた。

●児童の反応、評価

積極的に話を聞き、日本との違い・自分たちとの違いを考えていた。

自分たちと違う点としては、建物や設備がまだ整っていないこと、昼寝があること(小学校)、先生が女性ばかりなことに着目していた。

自分たちとの共通点では、障害を持っている人に対する理解が一般に進んでいないのは日本も同じだったということ、制服があること、歌が好きなことなどの意見が出た。

●指導者自身の所感・反省点・今後の改善策など

ベトナムの様々な面に触れていきながら、最終的には自分たちについて考える授業を進めたかったのだが、その目標に一步近付けたと感じる。

ベトナムは異国だがその異国のことそのものを理解する姿勢と、それを通して自分たちの今を見直し、どうあるべきかのデザインをしていくことが国際理解のひとつの到達点かもしれない、という自分なりの考えをまとめることができた。

資料

ベトナムの食べ物（授業での使用画像）



ベトナムの学校（授業での使用画像）



平成 17 年度 教師海外研修（派遣国：ベトナム）実践報告書

茂原市立緑ヶ丘小学校
渡邊 広志

タイトル：「ベトナムから未来の日本を考える」

実践教科：社会科（時間数：4時間）

対象児童・学年：第6学年

対象人数：36名

カリキュラム案

(1)実践の目的

6年生の社会科の単元に「世界の中の日本」というものがある。日本と関係の深い国々、世界の平和と日本の役割について学習する。日本はご存知のとおり資源が少ない国である。石油はほとんど輸入に頼っているし、食料自給率も40%とかなり低い。けれども平均寿命は世界一であり、国民は豊かな生活をしている。それは先人が頭を使って工夫し、産業を発展させて日本独自のものを創造し努力してきた結果である。高い教育水準を保ってこられたのもそのひとつである。

しかしこれから先の日本はどうであろうか？ かつては勤勉さがあり、礼節を重んじ長上を敬していた古き良き日本の社会は、崩れつつある。連日報道されていることは「偽装」「虐待」など暗い話題が多い。

「今、古き良き日本の姿を見るならばブラジルのサンパウロはリベルダーヂの日系人の街に見られる」という話も聞いたことがある。いったい未来の日本はどうなってしまうのか不安である。

そこで私は考えた。かつては欧米の先進国の姿を参考にしてきた日本人であるが、これからは、「発展しつつあるアジアの国」をみることで、自分たちが失ってきた勤勉さ、ひたむきさを思い出すことはできないだろうか。ここから未来への進む道を見出していけないものだろうか。

未来の担い手である子ども達にインパクトを与えることが必ずできると考えて実践することにした。

(2)授業の構成案

時限・テーマ	方法・内容	使用教材
第1時 ベトナムの風景を見よう	ベトナムの首都ハノイ、北部山岳地帯のバックザン、イエンバイの様子をVTRで見ながら、ベトナムの様子をつかむことができる。	ベトナムの地図 ベトナム国旗 ベトナムの首都ハノイ、北部山岳地帯のバックザン、イエンバイの様子を映したVTR
第2時 ベトナムの生活の様子について	ベトナムの写真を見ながら人々の生活の様子について考えることができる。	ベトナムの写真 ベトナムで収集したもの
第3時 ベトナムの子どもたちの将来の夢について見よう。	ベトナムの子どもたちの将来の夢を知ることから、発展しつつあるベトナムの様子について考えることができる。	ベトナムの小・中学生が答えたアンケートの回答
第4時 これからの日本の姿について考えてみよう。	ベトナムの様子から考えたことをもとにして日本の未来の姿について考えることができる。	今まで使用したもの

授業実践の詳細

第1時および第2時でベトナムの様子がおよそつかめた時点で、実施した第3時の様子について詳細に述べることとする。

第6学年 社会科学習活動案

平成18年1月23日(月) 4校時
 6年1組 男子22名 女子14名 計36名
 授業者 茂原市立緑ヶ丘小学校
 渡辺 広志

① 題材名「日本と関係の深い国々」

② 題材のねらい

- ・日本と関係の深い国々の様子に興味を持ち、お互いの違いや共通点について気づくことができる。
- ・日本と外国が互いに相手のよさを認めながら共に発展していくためにはどうしたらよいのかという課題に対して関心を持つことができる。

③ 児童の実態

本学級の児童は、外国に対して興味を持っている。地図で外国の地名を探したり、国旗のカードを見たりするなど関心を持っている。しかし国名、国旗などがわかっているにもかかわらず、そこに暮らす人々の様子、日本との関係などについては深く追求するまでには至っていない。

そこで本単元の学習を進める上で、教科書では「アメリカ」「大韓民国」「サウジアラビア」「中国」などが掲載されているが、担任が渡航したベトナムを紹介することで、そこに暮らす人々の様子、日本との関わりなどについて知らせていけばより諸外国に対しての児童の興味・関心が増すことだろうと考えて授業を構成した。

④ 本時の指導の様子

(1)本時のねらい

- ・ベトナムの小・中学生の考え
- ・生活の様子と自分達を比べてみよう。

(2)展開

学習活動と児童の反応	指導上の留意点	備考(資料・評価など)
1. 前時の学習を思い出しながら本時のめあてに迫る。 <ul style="list-style-type: none"> ・なんだか日本人に似ている。 ・オートバイに何人もの人が乗っていて凄かった。 ・ちょっと僕たちには食べられそうにないものもあった。 ・生きたまま鶏を売っているのに驚いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達を感じたことを正直に語らせる。 ・驚いたこと疑問に思ったことなどいろいろと自由に出させていく。 ・生活の仕方の違い、似ている点などについても抑えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに見せた資料や写真を掲示 (評) 自分達の見たこと考えたことがたくさん話すことができたか。
2. 本時のめあてをつかむ ベトナムの小・中学生の考え、生活の様子を自分達と比べてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの子供達の考えや様子を知らせる前に予想させて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを書き込むワークシート
3. ベトナムの小・中学生の考え、生活の様子を自分達と比べてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・一日の中で一番楽しい時間は休み時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの子供達がどういう考えを持っているかについてうまく思い浮かば 	<ul style="list-style-type: none"> (評) ベトナムの小中学生の立場になっているいろいろな考

<p>間かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶときかな？ ・将来就きたい職業はサッカーの選手かな？ ・今ほしいものはゲームソフトかな？ ・ラジコンカーかもしれない。 ・学校ではトランプなんかが流行っていそう。 ・サッカーなどだと思う。 ・好きな勉強は体育かな？ 音楽かも。 ・嫌いな勉強は算数かな？ ・学校にあったらよいものはエアコンとかパソコンじゃないかな？ ・遊具かもしれないよ。 ・日本という国については「技術が高い」「富士山が有名」「空手や柔道がある。」 <p>4. 実際にベトナムの小・中学生の考え、生活様子を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業で医者が多かった。教師も多かった。 ・軍人になりたいという人がいて意外だ。 ・枯葉剤の被害を受けた子どもに寄付したいなんて考えていて偉い。 ・鬼ごっこやバドミントンが盛んなんだ。 ・好きな勉強で数学（算数）が多いのでびっくりした。みんな勉強に燃えている。 ・それより嫌いな勉強は？ の質問に「無い」と答えた子が結構いて驚いた。 ・学校であつたらいいなと思うものはコンピュータが多い。日本からベトナムに寄付したらどうだろうか。 ・日本について知っていることややっぱり富士山とかロボットはなんとなくわかる。 ・経済発展している国ということ答えていた子が多い。 <p>5. 本時の授業の感想をまとめよう（各自自分で思ったことや考えたことをワークシートに記入する）。</p>	<p>ない場合は、今の自分としてどういうことを考えているかについて書くように促す。</p> <p>ここでも自分の考えを自由に出させていくことを主眼とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフに表したのものをもとにして自分達の考えと照らし合わせる。 ・あくまでこの資料は担任が訪問したベトナムのある学校の何名かの考えであるということを断っておく。 <p>・自分の思ったこと感じたことを自由に書くように促す。</p>	<p>えを書くことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの小・中学生がアンケートに答えた回答をグラフに表し、各自に配布する。 <p>(評) 自分達の予想したことと比べながらグラフを見ることができたか。</p>
--	--	---

(1)本時を終えての児童の反応

- ベトナムの子ども達の中には「ほしいものは特にない」といって日本と比べて贅沢していないのに、「今やりたいことは？」と聞かれて「枯葉剤の被害を受けている子ども達に寄付をしたい」といっているのととてもすごいと思った。
- 嫌いな勉強が無いということは それほど勉強に熱心なのかな？ 先生方が工夫しているのかと思った。
- 医者になりたいという人が多かったが、たくさんの人を病気から助けてあげてほしい。
- 桜の花のことや原子爆弾のことを知っている人が多くて意外だった。
- 学校にほしいものがコンピュータというのが僕は意外だった。ベトナムは暑いからクーラーとかエアコンが欲しいと答えると思っていた。
- 私は勉強で嫌いな教科が結構あるのに「嫌いな勉強はない」と答えた子どもが結構いるので驚いた。なんだかベトナムに行ってフォーを食べてみたくなった。
- 人の役に立ちたいと思う人がいて立派だと思った。
- ベトナムの子ども達が「日本は経済発展の国」と答えていた。私はそういうことは今日はじめて知ったのに……。
- 父母の手伝いをするなんてすごくやさしくてよい子がいるんだなと思った。

(2)自分自身の所感・反省・今後の改善策など

この授業をはじめた頃、授業後の子ども達の感想はベトナムの珍しいことが中心にかかれていた。「市場の肉屋に豚の鼻や足が置いてあって驚いた」「列車がこないとき線路の近くを人が歩いているけれど危なくないのか」「バイクにたくさんの人が乗っているの驚いた」「アヒルの卵の雛になりかけのは気持ちが悪い」「鶏をどうして生きたまま売っているのか」etc.

私自身は、ひとつひとつの事象から日本とベトナムを比べて自分達の日ごろの生活を振り返って欲しいのであるが、最初からそこに行くのは難しかった。けれどもベトナムで収集してきたものを教室の中に置いておき自由に触らせたりしているうち、子ども達の中にも自分の今の日本の生活と比べて考えるようになってきた。

教師の方はせっかく外国まで行って資料収集などをしてきたのだから、あれも出したいこれも出したいと思いがちになるが、あせるよりも自由に触らせて自分なりの考えをどんどん出させていくことがまず最初に大切であると思った。

子ども達にとって初めて見るものは珍しい。だからその珍しさに目が行ってしまうのはあたりまえなのである。

また高学年になると「こんなこと言ったら違うかな？」「間違っことを言ったら恥ずかしいな」という意識が出てきてしまう。教師の方で「もちろん正解はある。でもまず君達がどんな事を考えたか大事だよ」もっと極端に言えば「どんな事を話しても絶対に叱らない」と言う位の構えが大事だと思う。

私自身、4月からこの6年1組を担当して如何に考えを自由に語らせていくか様々な努力工夫をしてきた。「間違っことを言っても私は絶対に怒らない。馬鹿にしない」といいつづけてきたことが卒業まであとわずかとなったこの時期に育ってきたのが嬉しい限りである。

(3)この3時間目の次の4時間目の主な子ども達の感想を記す。

ベトナム紹介からこれからの未来の日本について「熱く自分の考えを語ろう」ということで各自にまとめさせたものの抜粋である。

- 今の日本の子ども達は物に対する心が足りない。あたりまえにあるから大切さに気が付かない。
- 大地震がきて自分の家が壊れてしまってからじゃないと家の大切さがわからないのと同じかもしれない。
- ベトナムの母親は仕事をもって働いているから子ども達も責任感が出てきて自分のことをやったり手伝ったりするようになるのだと思う。そういう点で日本の母親もベトナムを見習ったほうが良いと思った。
- 税金や年金の無駄遣いをしている今の日本。何億円も無駄にしている。だったら困っている人

や国に援助するなどすれば、未来の日本は他の国とも仲良くできると思う。

- 今、日本は少子化。学力低下も言われている。私達が勉強してもっとがんばらなくては。
- ベトナムに日本の会社があって驚いた。
- 日本が今こうして豊かに暮らせるのは先祖のおかげだと思った。なのに今いろいろな事件が多発しているのでおかしいと思う。
- ベトナムで医者になりたいと思う子どもが多かったのは医学がまだ発達していないからかもしれない。日本も協力してベトナムの医療に発展に尽くしたほうがいいと思った。
- 僕達は「めんどくさい」「つかれた」などマイナスな言葉をついつい使ってしまう。でも今からマイナス言葉をプラス言葉に変えて日本の将来をプラスな社会にしていきたいと思っている。
- ベトナムの版画に水牛などの動物の絵がたくさんあった。ベトナムの人は動物を大切にしているのかな。やさしい心をもち動物の恵みを大切にしているのだと思った。
- 犬や水牛を放し飼いにしても盗られないから悪い人があまりいないのかなと思った。
- 日本では働く人が足りなくなって外国人が働きにきている。ベトナムはもうちょっとすると今の日本くらいに発展するのではないかな？
- ベトナムの屋台は活気があって自分でビデオを見たりしているとこっちまで元気付けられる気がしました。
- この学習をして少し自分も社会のことについて考えるようになりました。ベトナムの子ども達は親の手伝いや勉強も熱心に取り組んでいるのに、私達は親の手伝いも少ないし勉強も「めんどくさい」といってしまう。私はもっとベトナムの人々から学ぶべきだと思いました。
- 牛や鶏、豚などの命をもらって生きているのだからその命を大切にしなければいけないと思いました。
- 私の夢は薬剤師になることです。病気の人を助けたいです。自分達の未来が見たいと思うときがあります。だけど時間が早くなったり遅くなったりはしません。これだから人間なのです。生きている証拠です。今は今で自分でできることをがんばって生きたいと思います。
- 日本語を学ぶ学生がいてすごく上手だそうだからあってみたい。
- 少年隊のみなさんベトナムを豊かな国にするようにがんばってください。
- 最近の子どもは体力や学力が落ちているといわれている。将来ひょっとすると日本がなくなってしまうかもしれない。

(4)

今回 JICA の教師海外研修でベトナムに行けた事は私自身にとってもものすごい勉強になった。教師生活 25 年もすると大体の学校の仕事の流れはわかるし、教える教材も教科書の改訂があっても大幅に変わるわけではない。

教師自身が安閑と日々をすごしてしまう。

観光旅行ではない今回のベトナム行きで私は自分が思っていたとおり、ベトナムのハノイの街角には自分の幼い頃の自分の住んでいた街角に似ているものがあつた。ベトナムの少年達の笑顔に自分の幼い頃の夢があつた。これからの日本は発展途上の国々から学ぶことがたくさんあると実感した。

そして私の実践もこれで終わりではなく、また新しく始まる。まずは自分の勤務する茂原市に広めていくことである。今回この実践を「総合的な学習」ではなく「社会科」として世界の中の日本の導入部分として位置付けて考えたのは、発表の舞台を茂原市で求めていることである。

実践してみるとその他にいろいろと感じたことがある。それはいろいろな教科で実践できるということである。道徳でもできる。国語でもできそうである。難しいこと大変なこととして敬遠されることも多いけれど、簡単なことから始めていけばいいと私は思っている。

またいつの日か外国を見てみたい。今、私が一番興味のあるところはサンパウロのリベルダーヂの日系人の街である。ここにいけば何かまた感じてこられると思う。

私の教師生活の節目の時期に、こうして研修の機会を与えてくださった JICA に感謝申し上げます。

授業風景



ベトナムってどんな国？
今からお話するよ。



世界地図で探してみたら
日本よりも南にある。
カンボジアやラオスの
近くだね。



パンフレット面白いな。
ベトナム語の漫画も面白い。
閉じ方が日本と反対だ。



国旗の前で帽子をかぶって
ポーズ!?



思ったこと、大事なことは
忘れないうちに書いておこう。



ベトナムの版画って面白い。
いろいろな色が出ている。



結構涼しそう？



ベトナム代表!?



今度は何が出て
来るのだろうか？



水上人形劇、
面白そう！

平成17年度 教師海外研修（派遣国：ベトナム）実践報告書

千葉県市原市立国分寺台西中学校
岡戸 一治

タイトル： ・平等・生きる・命・環境

世界を知り、日本を知り、自分自身を見つめ、人間としての生き方を見つけるために)

実践教科：総合学習、学活、道徳（時間数：10時間）

対象生徒・学年：中学生・3学年

対象人数：31名

カリキュラム案

(1)実践の目的

日頃、いじめや刃物を用いた、児童生徒による事件が騒がれる中、そのようなニュースを耳にすると、私自身もそうですが、とても他人事と思えず心を痛める経験をする。そのような経験から道徳の授業や総合の学習等で様々な方向から国際理解教育を通して「心を育む」を主眼におき実践を行う。学習の目標として①自分自身の存在を知りどれだけ尊厳されるものなのかを知る。②他の生命に対して自分自身と同様に尊いものであることを知る。③他を受け入れ自分自身がどう生きるか（共生）を身につけること。

以上のことを目標に（テーマ）を

- ①命（すべての命の尊さについて探る）
 - ②生活（異国の地でどう生きているかを探る）
 - ③環境（本当の安全とは何かを探る）
- として実践を行う。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 テーマ：What is ベトナム ねらい：生徒の心を国外に向けさせ、今後学習していくための視野を持たせる。	(1)写真、包装紙、などを用いクイズ形式で国あてする。 (2)「ベトナムと言えば」をテーマにワークシートに記入させる。 (3)ベトナムについての質問を記入する。	(1)写真、お菓子の袋、おもちゃ
2時限 テーマ：ベトナムについて知ろう。 ねらい：ベトナムについて理解を深め自分の環境との違いを知る。 (ベトナム料理を作ろう)	(1)パワーポイントを使ってベトナムを紹介する。 (2)ベトナムの民芸品などをてにしてその品物の由来、使い方など知る。 (3)ベトナムの食材についてしらべ、家庭で 試食してみる。	(1)プロジェクター (2)ベトナム版画、生活雑貨 (3)調理前の食材（エビチップス）
3時限 テーマ：ベトナムの生徒にメッセージ ねらい：異国の生活観を直接聞き、より具体性のある知識としての蓄積。	(1)研修で持ち帰った、ベトナムの方の文章を読む。 (2)ベトナムの方へメッセージとして、手紙を書く。	(1)ベトナムからの手紙

4 時限 テーマ：ダッカウを使っ てのレクリエーション ねらい：レクを通して他 国のスポーツを知り、 その歴史について理 解を深める。	(1)ダッカウを何も説 明しないまま、生徒 に提示する。 (2)自分たちの作っ たルールをもとにダ ッカウを使ったゲー ムをする。 (3)ダッカウがベト ナムでメジャーなス ポーツであることを 告げ、その使い方 について説明する。	(1)ダッカウ
5 時限 テーマ：世界に愛を ねらい：インターネット を用い世界の情勢 について調べ、世 界へのメッセージ を考える。	(1)インターネット を用い、世界の情 勢について調べる。 (2)途上国につい て的を絞り、歴史 的背景とともに、 それぞれの国の課 題について考える。 (3)調べたときの 感想をワークシー トにまとめる。	(1)パソコン教室 (2)プリントアウト したそれぞれの 国の写真
6 時限～9 時限 テーマ：世界へのメ ッセージ（合唱を しよう） ねらい：世界への 願いを歌にし、 自らの国際理解 の学習にする。	(1)前時の感想を もとに、合唱曲を 決定する。（決定 曲：インテラ・パ ックス） (2)思いを歌に 込めて練習する。 (3)文化祭の発 表の場で合唱を 披露する。	(1)候補の曲 (2)カセットデ ッキ
10 時限 テーマ：ウムヨムの ぶた（JOCA 教材） ねらい：ぶたの生 命を通して、自 分の持っている 価値観と世界の 価値観の違い を知る。	(1)フォトラン ゲージでウムヨ ム村の生活を 紹介する。 (2)フラッシュ カードのキーワ ードについて 班ごとに物語 を作り、発表 する。 (3)学習の感 想をまとめる。	(1)JOCA 教材 (2)フラッシュ カードのキー ワード

授業の詳細

1 時限

テーマ：What is ベトナム

- (1)写真、包装紙、#1などを用いクイズ形式で国あてする。
- (2)「ベトナムと言えば」をテーマにワークシートに記入させる。
- (3)ベトナムについての質問を記入する。

生徒の反応：全体を通してベトナムについての意識が高まった。クイズ形式で行ったので、意欲をもって取り組んでいた。スポットでベトナムを学習することで、「なぜ」と言うような意見もあった。

生徒の質問内容：夢は何ですか。ベトナムのシンボルは何か。どんな料理があるか。等

所感・反省点：世界についての学習課程を経て、ベトナムの学習に移行することによってより、効果的な学習ができたのではないかと感じた。

2 時限

テーマ：ベトナムについて知ろう。

- (1)パワーポイントを使ってベトナムを紹介する。#2
- (2)ベトナムの民芸品などを手にしてその品物の由来、使い方など知る。#3
- (3)ベトナムの食材についてしらべ、家庭で試食してみる。

生徒の反応：現地の映像なので、とても興味を持って取り組んでいた。ベトナムの民芸品については日本にはない素材だったので感動している生徒が多数いた。

食材については「おいしかった」という感想があった。

質問の返答：日本についてどう思いますか？ → 日本は経済が発達しています。

日本に来たいですか？ → へい、きたいです。

ベトナムの生活は楽しいですか？ → 楽しいですがちょっと不便です。

所感・反省点：現地の素材、現地の写真等を使うことで生徒の関心が予想以上に高かったことに驚いた。現地の教材の大切さを痛感した。

3 時限

テーマ：ベトナムの生徒にメッセージ

(1) 研修で持ち帰った、ベトナムの方の文章を読む。

(2) ベトナムの方へメッセージとして、手紙を書く。

生徒の反応：自分が思い描いていたベトナム像と違った生徒が多く見られた。

現地の生の声だったので、関心が高く、その後の手紙を書く意欲が高まった。

所感・反省点：やはり現実に異国の文化に触れることができるので学習効果が高いことを感じた。研修前にもう少し多くの素材の交換を行っておきたかった。

4 時限

テーマ：ダカウ # 4 を使ったのレクリエーション

(1) ダカウを何も説明しないまま、生徒に提示する。

(2) 自分たちの作ったルールをもとにダカウを使ったゲームをする。

(3) ダカウがベトナムでメジャーなスポーツであることを告げ、その使い方について説明する。

生徒の反応：最初は球のスピードにとまどいを感じていたが、非常に楽しいと、喜びの言葉が多かった。紹介後、休憩時間になると遊んでいる様子をしばし見受けられた。

所感・反省点：今回は使い方について説明したが、あえて説明せず、時間をかけて調べ学習をしても良かったのではないか。ダカウを通してスポーツの面から学習できたところが良かった。

5 時限

テーマ：世界に愛を

(1) インターネットを用い、世界の情勢について調べる。

(2) 途上国についての的を絞り、歴史的背景とともに、それぞれの国の課題について考える。

(3) 調べたときの感想をワークシートにまとめる。

生徒の反応：世界にはいろいろな人がいることに気付き、命、平和についての意識が高まった様子である。

所感・反省点：世界の様子については理解ができたようだが、歴史的背景からその国の課題について考えるまでが時間不足を感じた。

6 時限～9 時限

テーマ：世界へのメッセージ（合唱をしよう）

(1) 前時の感想をもとに、合唱曲を決定する。（決定曲：インテラ・パックス）

(2) 思いを歌に込めて練習する。

(3) 文化祭の発表の場で合唱を披露する。 # 5

生徒の反応：世界の平和が私たち日本の平和につながるということが理解できた。発表に対して熱心な取り組みができた。発表後の様子として、今も継続して途上国をはじめ国際的な視野を持って生活をしている様子がみられる。

所感・反省点：合唱を通して国際理解について考える場がもてたことが良かった。取り組みが3 学年であることがとても意味あるものではないかと思った。今後の資料として卒業しても取り組めるような基板を作っていきたいと強く感じた。

10 時限

テーマ：ウムヨムのぶた（JOCA 教材）

- (1) フォトランゲージでウムヨム村の生活を紹介する。
- (2) フラッシュカードのキーワードについて班ごとに物語を作り、発表する。
- (3) 学習の感想をまとめる。

生徒の反応：ブタが焼かれているところを見て、気分が悪かったが。物語を作っているうちに引き込まれていった。文化の違いで安易に残酷だとかを決められないと感じた。私も世界のことをもっと知ろうと思った。等

所感・反省点：JOCA の教材を使ったの授業であったがとても精選されていて、生徒の反応も良かった。今後もこのような教材や JICA の方の協力を得て開発教育、国際理解養育の推進に努めたいと感じた。

1



3



4



5

